

平成 20 年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)

* 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考になれば幸いです。

現況と見通し(予報対象期間:平成 20 年 10~11 月)

【現況(～9月末まで)】

- ・ 漁況指標値(香住本所の 1 日 1 隻あたり漁獲量)は 58~108kg で推移。
- ・ 幅広いサイズのイカ(胴長 35~70cm)が漁獲されている。
- ・ 漁獲物は、9月下旬時点で胴長 53~55cm(5~6kg)のものが主体。
- ・ 但馬沖に小規模な冷水域が存在し、好漁場の位置や海流に影響。

【今後の漁況予報】

- ・ 今後しばらくは、現在の群(胴長 55cm 前後)が成長しながら漁獲の主体となる。
- ・ 冷水域は 36° N 以南の海域にまで大きく接岸することはなく、漁場範囲は例年並み。

* 日本海西部海域の海況予測には、「九州大学応用力学研究所」の日本海海況予測システムを利用しました。
(<http://oops.riam.kyushu-u.ac.jp/vwp/>)

1. 漁況の推移 (図1)

今漁期は例年よりやや漁期の開始が遅く、9月に入って漁獲が本格化してきたところです。漁況の指標としている但馬漁協香住本所の1日1隻あたり漁獲量の旬別平均値は、8月下旬以降、58~108kgで推移しています。9月中旬までは昨年を下回っていましたが、9月下旬は上回りました。

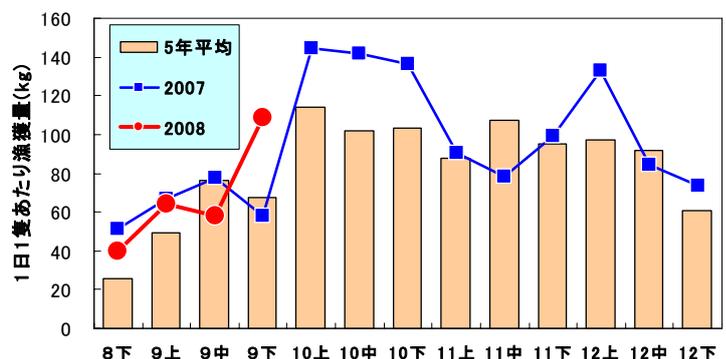


図1. 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移(JF但馬香住本所)

2. 漁獲物組成の推移 (図2)

但馬漁協香住本所での市場調査の結果では、漁期開始時から、幅広い体長範囲(35cm~70cm)のイカが漁獲されていますが、漁獲物のサイズは昨年(図中の青線)に比べるとやや小さめです。

最も漁獲されているサイズは、イカの成長に伴い、9月上旬では45~47cm(体重3~4kg)であったものが、9月下旬には53~55cm(5~6kg)になっています。今後しばらくは、この群が成長しながら漁獲の中心となるものと考えられます。

また、例年、10月頃に別の小型サイズの群が加入してきますが、今漁期はまだ確認されていません。

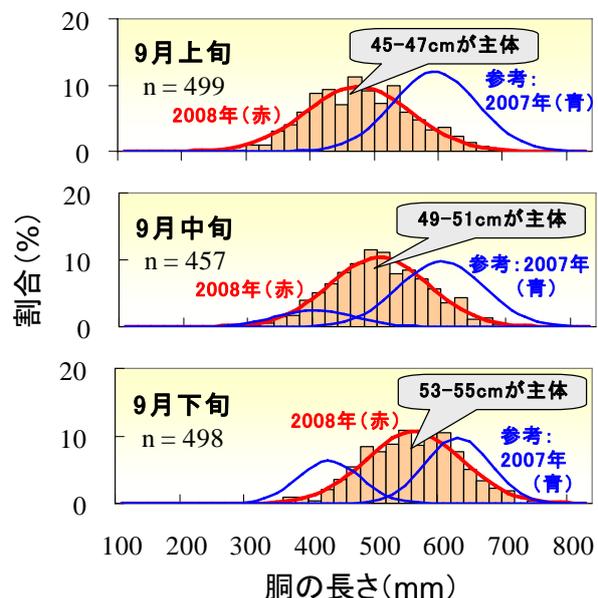


図2. 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、**好漁場は水深 50m の水温が 19°C以上、水深 100m の水温が 14-15°C以上の海域に形成される**ことが分かっています。また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されています。

今漁期の 100m 深の水温の変化を「日本海海況予報モデル」により予測してみました(右図)。それぞれ**黒い太線が水温 15°Cを示しており、太い線よりも沿岸側が水温条件を満たす「好漁場」となる可能性のある海域**です。

9月の山陰沖 100m 深の水温図では、**鳥取～但馬沖のやや沿岸寄り(36° N以南)に冷水域が張り出しており、好漁場の条件を満たしていない海域**がありました。

10月にかけて、この冷水域は**やや勢力を弱めながら北東方向に拡大**しますが、指標水温の等温度線は海岸線とほぼ並行になっています。**35° 50' N以南の海域では概ね 100m 深水温が 15°C以上**となると予測されます。

11月上旬になると、冷水域は全体的に北上し、**36° N以南の海域では概ね 15°C以上**となるでしょう。

また、冷水域や暖水域の影響により、海域によっては海流の向きに大きな変化(速い逆潮等)が生じる場合がありますので、操業時にはご注意ください。

4. その他

気象庁の3ヶ月予報では、日本海沿岸各府県の気温は「**平年よりも高い**」可能性が高いと予想されています。また、日本海区水産研究所の予想では、対馬暖流域の表面水温、50m 深の水温は、ともに「**平年並み**」で推移すると予想されています。海域全体の海況条件としては、概ね平年並みに推移するものと考えられます。

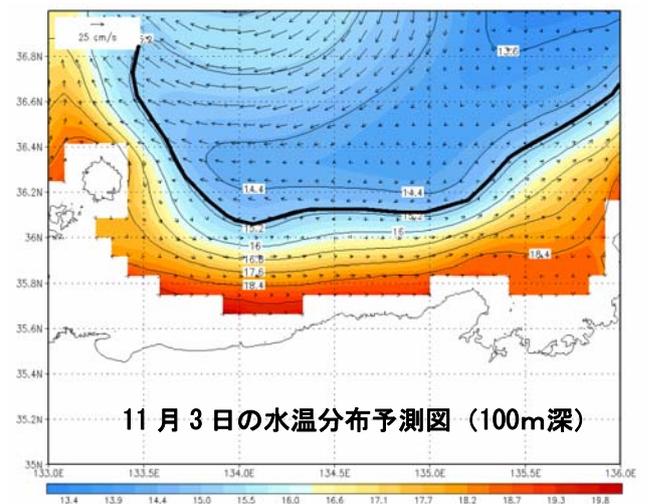
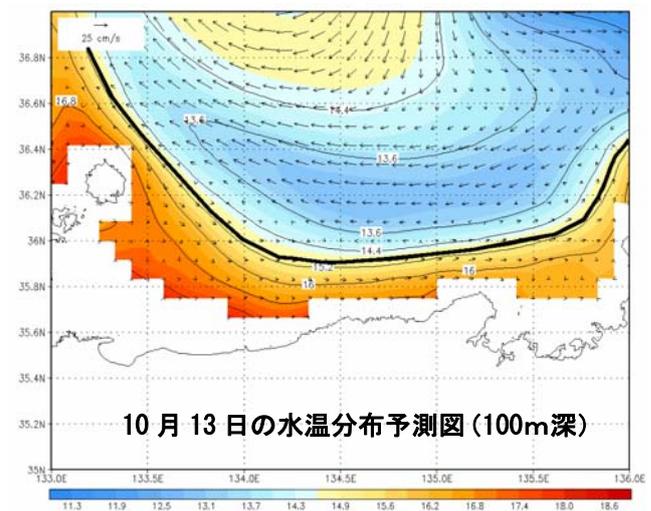
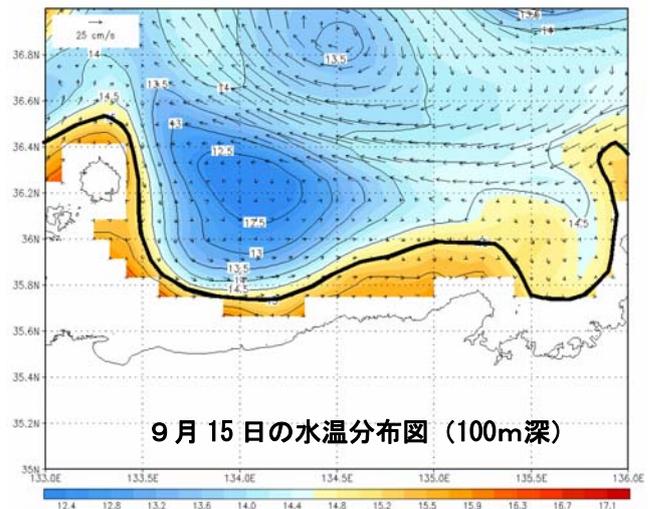


図3. 水深 100m の水温分布予測(9～11月)
太線＝水温 15°C等温線の目安